

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成29年4月6日 (2017.4.6)

【公開番号】特開2015-194481(P2015-194481A)

【公開日】平成27年11月5日 (2015.11.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-068

【出願番号】特願2015-40187(P2015-40187)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 33/68

C 1 2 Q 1/68 A

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

G 0 1 N 33/50 P

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月3日 (2017.3.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の工程 (A) ~ (D) :

(A) F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質を発現可能な哺乳動物由来の組織又は細胞に、被験物質を接触させる工程、

(B) 該哺乳動物由来の組織又は細胞における F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、

(C) 前記 (B) で測定した発現量又は活性を、対照群における F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性と比較する工程、

(D) 前記 (C) の結果に基づいて、F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性を減少させる被験物質を、G I P 上昇抑制剤として評価又は選択する工程、

を含む、G I P 上昇抑制剤の評価又は選択方法。

【請求項 2】

以下の工程 (A) ~ (D) :

(A) F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質を発現可能な哺乳動物由来の組織又は細胞に、被験物質を接触させる工程、

(B) 該哺乳動物由来の組織又は細胞における F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、

(C) 前記(B)で測定した発現量又は活性を、対照群におけるF A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性と比較する工程、

(D) 前記(C)の結果に基づいて、F A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性を減少させる被験物質を、食欲抑制剤として評価又は選択する工程、

を含む、食欲抑制剤の評価又は選択方法。

【請求項3】

以下の工程(A)～(D)：

(A) F A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質を発現可能な哺乳動物由来の組織又は細胞に、被験物質を接触させる工程、

(B) 該哺乳動物由来の組織又は細胞におけるF A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性を測定する工程、

(C) 前記(B)で測定した発現量又は活性を、対照群におけるF A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性と比較する工程、

(D) 前記(C)の結果に基づいて、F A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性を減少させる被験物質を、消化促進剤として評価又は選択する工程、

を含む、消化促進剤の評価又は選択方法。

【請求項4】

以下の工程(A)～(D)：

(A) F A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質を発現可能な哺乳動物由来の組織又は細胞に、被験物質を接触させる工程、

(B) 該哺乳動物由来の組織又は細胞におけるF A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性を測定する工程、

(C) 前記(B)で測定した発現量又は活性を、対照群におけるF A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性と比較する工程、

(D) 前記(C)の結果に基づいて、F A B P 4遺伝子若しくはF A B P 5遺伝子の発現量、F A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の発現量、又はF A B P 4蛋白質若しくはF A B P 5蛋白質の活性を減少させる被験物質を、胃もたれ改善剤として評価又は選択する工程、

を含む、胃もたれ改善剤の評価又は選択方法。

【請求項5】

前記(B)で測定した発現量又は活性が、前記対照群における発現量又は活性に対して統計学的に有意に減少していた場合に、前記被験物質はG I P上昇抑制効果、食欲抑制効果、消化促進効果、あるいは胃もたれ改善効果があると評価される、請求項1～4のいずれか1項記載の方法。

【請求項6】

前記(B)で測定した発現量又は活性が、前記対照群における発現量又は活性を100%としたときに90%以下である場合に、前記被験物質はG I P上昇抑制効果、食欲抑制効果、消化促進効果、あるいは胃もたれ改善効果があると評価される、請求項1～4のいずれか1項記載の方法。

【請求項7】

以下の工程(A')～(D')：

(A') 被験物質を非ヒト哺乳動物に投与する工程、  
(B') 該非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、  
(C') 前記(B')で測定した発現量又は活性を、対照群の非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性と比較する工程、  
(D') 前記(C')の結果に基づいて、F A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を減少させる被験物質を、G I P 上昇抑制剤として評価又は選択する工程、  
を含む、G I P 上昇抑制剤の評価又は選択方法。

【請求項 8】

以下の工程(A')～(D')：

(A') 被験物質を非ヒト哺乳動物に投与する工程、  
(B') 該非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、  
(C') 前記(B')で測定した発現量又は活性を、対照群の非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性と比較する工程、  
(D') 前記(C')の結果に基づいて、F A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を減少させる被験物質を、食欲抑制剤として評価又は選択する工程、  
を含む、食欲抑制剤の評価又は選択方法。

【請求項 9】

以下の工程(A')～(D')：

(A') 被験物質を非ヒト哺乳動物に投与する工程、  
(B') 該非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、  
(C') 前記(B')で測定した発現量又は活性を、対照群の非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性と比較する工程、  
(D') 前記(C')の結果に基づいて、F A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を減少させる被験物質を、消化促進剤として評価又は選択する工程、  
を含む、消化促進剤の評価又は選択方法。

【請求項 10】

以下の工程(A')～(D')：

(A') 被験物質を非ヒト哺乳動物に投与する工程、  
(B') 該非ヒト哺乳動物から採取した小腸におけるF A B P 4 遺伝子若しくはF A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の発現量、又はF A B P 4 蛋白質若しくはF A B P 5 蛋白質の活性を測定する工程、  
(C') 前記(B')で測定した発現量又は活性を、対照群の非ヒト哺乳動物から採取した

小腸における F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性と比較する工程、

( D ' ) 前記 ( C ' ) の結果に基づいて、F A B P 4 遺伝子若しくは F A B P 5 遺伝子の発現量、F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の発現量、又は F A B P 4 蛋白質若しくは F A B P 5 蛋白質の活性を減少させる被験物質を、胃もたれ改善剤として評価又は選択する工程、

を含む、胃もたれ改善剤の評価又は選択方法。

【請求項 1 1】

前記 ( B ' ) で測定した発現量又は活性が、前記対照群における発現量又は活性に対して統計学的に有意に減少していた場合に、前記被験物質は G I P 上昇抑制効果、食欲抑制効果、消化促進効果、あるいは胃もたれ改善効果があると評価される、請求項 7 ~ 1 0 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 1 2】

前記 ( B ' ) で測定した発現量又は活性が、前記対照群における発現量又は活性を 1 0 0 % としたときに 9 0 % 以下である場合に、前記被験物質は G I P 上昇抑制効果、食欲抑制効果、消化促進効果、あるいは胃もたれ改善効果があると評価される、請求項 7 ~ 1 0 のいずれか 1 項記載の方法。